

## 第9章 エネルギー法

**問題9.1** 棒の材料の単位体積あたりの重量（比重量）を  $q$  とすると、下端に  $x$  軸の原点を置き、下端から  $x$  の距離にある断面上の引張り応力  $\sigma$  は、 $x$  までの重量を  $qAx$  を断面積  $A$  で割って

$$\sigma = qAx / A = qx$$

となる。 $x$  の位置での微小厚さ  $dx$  の微小体積  $A dx$  に蓄えられるひずみエネルギーは  $dU$  は、式 (9.7) から

$$dU = (\sigma^2 / 2E) A dx = (q^2 x^2 A / 2E) dx \quad \text{①}$$

したがって、棒全体に蓄えられる弾性ひずみエネルギー  $U$  は式①を  $0$  から  $l$  まで積分して求まるが、 $q = mg / (Al)$  とおくと次式で与えられる

$$U = \int_0^l dU = \int_0^l \frac{q^2 x^2 A}{2E} dx = \frac{q^2 A l^3}{6E} = \frac{(mg / Al)^2 A l^3}{6E} = \frac{m^2 g^2 l}{6EA}$$

**問題9.2** 棒(a)の場合の引張り応力の最大値を  $\sigma_e$  とし、棒(a)、(b)、(c)の弾性ひずみエネルギーをそれぞれ  $U_a, U_b, U_c$  とおくと、 $U_a$  は式 (9.6) から

$$U_a = \frac{\sigma_e^2}{2E} A l = \frac{\sigma_e^2}{2E} A l = \frac{\sigma_e^2}{2E} \frac{\pi}{4} (2d)^2 2l = \frac{\sigma_e^2 \pi d^2 l}{E} \quad \text{①}$$

棒(b)は、変断面の位置で応力集中はないとすると直径  $d$  の部分の応力が最大値となるので  $\sigma_e$ 、直径  $2d$  の部分の応力は断面積が2倍なので  $\sigma_e / 4$  となるので

$$U_b = \frac{\sigma_e^2}{2E} A l = \frac{\sigma_e^2}{2E} \frac{\pi}{4} d^2 l + \frac{(\sigma_e / 4)^2}{2E} \frac{\pi}{4} (2d)^2 l = \frac{\sigma_e^2 \pi d^2 l}{8E} + \frac{\sigma_e^2 \pi d^2 l}{32E} = \frac{5\sigma_e^2 \pi d^2 l}{32E} \quad \text{②}$$

棒(c)の最大引張り応力は、長さ方向に一定で  $\sigma_e$  となり、

$$U_c = \frac{\sigma_e^2}{2E} A l = \frac{\sigma_e^2}{2E} \frac{\pi}{4} d^2 (2l) = \frac{\sigma_e^2 \pi d^2 l}{4E} \quad \text{③}$$

式①、②と③に比をとると  $U_a : U_b : U_c = 32 : 5 : 8$  となる。

**問題9.3** 固定端 A から  $x$  の位置での曲げモーメント  $M_x$  は

$$M_x = -R_A x + M_A + f_0 x^2 / 2$$

となる。曲げモーメントによるはり全体のひずみエネルギー  $U$  は式 (9.20) より

$$U = \int_0^l \frac{M_x^2}{2EI} dx$$

である。固定端  $x$  でのたわみゼロの条件とカスティリアノの定理より

$$0 = \frac{\partial U}{\partial R_A} = \frac{\partial U}{\partial M_x} \frac{\partial M_x}{\partial R_A} = \frac{1}{2EI} \int_0^l 2M_x \frac{\partial M_x}{\partial R_A} dx = \frac{1}{EI} \int_0^l \left( -R_A x + M_A + \frac{f_0 x^2}{2} \right) (-x) dx$$

$$= \frac{1}{EI} \left[ \frac{R_A x^3}{3} - \frac{M_A x^2}{2} - \frac{f_0 x^4}{8} \right]_0^\ell = \frac{1}{EI} \left[ \frac{R_A \ell^3}{3} - \frac{M_A \ell^2}{2} - \frac{f_0 \ell^4}{8} \right]$$

$$\therefore 12M_A - 8R_A \ell + 3f_0 \ell^2 = 0 \quad \text{①}$$

同じく固定端  $x$  でのたわみ角ゼロの条件とカステリアノの定理より

$$0 = \frac{\partial U}{\partial M_A} = \frac{\partial U}{\partial M_x} \frac{\partial M_x}{\partial M_A} = \frac{1}{2EI} \int_0^\ell 2M_x \frac{\partial M_x}{\partial M_A} dx = \frac{1}{EI} \int_0^\ell \left( -R_A x + M_A + \frac{f_0 x^2}{2} \right) (1) dx$$

$$= \frac{1}{EI} \left[ -\frac{R_A x^2}{2} + M_A x + \frac{f_0 x^3}{6} \right]_0^\ell = \frac{1}{6EI} [-3R_A \ell^2 + 6M_A \ell + f_0 \ell^3]$$

$$\therefore 6M_A - 3R_A \ell + f_0 \ell^2 = 0 \quad \text{②}$$

式①と②を連立して解くと、

$$R_A = f_0 \ell / 2 = R_B$$

が得られる。また、①式に  $R_A = f_0 \ell / 2$  を代入し整理すれば  $M_A$  が求まり、次のようになる。

$$12M_A = 8R_A \ell - 3f_0 \ell^2 = 4f_0 \ell^2 - 3f_0 \ell^2 = f_0 \ell^2$$

$$\therefore M_A = f_0 \ell^2 / 12 = M_B$$

#### 問題9.4

方針：C点に仮想荷重  $P'$  と仮想モーメント  $M'$  をかけ、例題9.9と同様に

$$\delta_C = \left[ \frac{\partial U}{\partial P'} \right]_{P'=0}, \quad i_C = \left[ \frac{\partial U}{\partial M'} \right]_{M'=0} \quad (1)$$

により求める。

#### 準備事項

外力による曲げモーメント

$$M_P = Px \quad (2)$$

仮想荷重  $P'$  による曲げモーメント

$$0 \leq x \leq \ell/2 \text{ で } M_{P'} = 0 \quad \rightarrow \frac{\partial M_{P'}}{\partial P'} = 0 \quad (\text{あとで使う}) \quad (3)$$

$$\ell/2 \leq x \leq \ell \text{ で } M_{P'} = P'(x - \ell/2) \quad \frac{\partial M_{P'}}{\partial P'} = x - \ell/2$$

仮想モーメント  $M'$  による曲げモーメント

$$0 \leq x \leq \ell/2 \text{ で } M_{M'} = 0 \quad \rightarrow \frac{\partial M_{M'}}{\partial M'} = 0 \quad (5)$$

$$\ell/2 \leq x \leq \ell \text{ で } M_{M'} = M' \rightarrow \frac{\partial M_{M'}}{\partial M'} = 1 \quad (6)$$

全体では

$$M = M_P + M_{P'} + M_{M'} \quad (7)$$

ひずみエネルギー

$$U = \int \frac{M^2}{2EI} dx = \int \frac{(M_P + M_{P'} + M_{M'})^2}{2EI} dx \quad (8)$$

### カスティリアノの定理

集中荷重  $P$  が作用するとき、その点の荷重方向の変位（一様断面棒を仮定して  $EI$  を積分の外に出している）

$$\begin{aligned} \delta &= \frac{\partial U}{\partial P} = \frac{1}{2EI} \frac{\partial}{\partial P} \int M^2 dx = \frac{1}{2EI} \int \frac{\partial M^2}{\partial P} dx = \frac{1}{2EI} \int \frac{\partial M^2}{\partial M} \frac{\partial M}{\partial P} dx \\ &= \frac{1}{EI} \int M \frac{\partial M}{\partial P} dx \quad (9) \end{aligned}$$

### 現問題への適用

$P$ 、 $P'$ 、 $M'$  が同時に作用するときの  $C$  点の変位

$$\delta_C = \frac{\partial U}{\partial P'} = \frac{1}{EI} \int M \frac{\partial M}{\partial P'} dx = \frac{1}{EI} \int_{\ell/2}^{\ell} \{Px + P'(x - \ell/2) + M'\}(x - \ell/2) dx$$

( $\because 0 \leq x \leq \ell/2$  では  $\frac{\partial M_{P'}}{\partial P'} = 0$  なので、その部分の積分は 0)

$$= \frac{1}{EI} \left[ P \left( \frac{x^3}{3} - \frac{\ell x^2}{4} \right) + P' \left( \frac{x^3}{3} - \frac{\ell x^2}{2} + \frac{\ell^2 x}{4} \right) + M' \left( \frac{x^2}{2} - \frac{\ell x}{2} \right) \right]_{\ell/2}^{\ell} \quad (10)$$

(第 2 項、第 3 項は使わないので、積分を途中で止めてある)

$P' \rightarrow 0$ 、 $M' \rightarrow 0$  のときが求める変位

$$\delta_C = \frac{1}{EI} \left[ P \left( \frac{x^3}{3} - \frac{\ell x^2}{4} \right) \right]_{\ell/2}^{\ell} = \frac{5P\ell^3}{48EI} \quad (11)$$

たわみ角も同様にして求められる。

$P$ 、 $P'$ 、 $M'$  が同時に作用するときの  $C$  点のたわみ角は

$$i_C = \frac{\partial U}{\partial M'} = \frac{1}{EI} \int M \frac{\partial M}{\partial M'} dx = \frac{1}{EI} \int_{\ell/2}^{\ell} \{Px + P'(x - \ell/2) + M'\}(1) dx \quad (12)$$

( $\because 0 \leq x \leq \ell/2$  では  $\frac{\partial M_{M'}}{\partial M'} = 0$  なので、その部分の積分は 0)

$$i_C = \frac{1}{EI} \left[ \frac{Px^2}{2} \right]_{\ell/2}^{\ell} = \frac{3P\ell^2}{8EI}$$

$P' \rightarrow 0$ 、 $M' \rightarrow 0$  のときが求めるたわみ角なので式 (12) 中の  $P'$  と  $M'$  が含まれる項の積分は途中で止めてある。

<別解>仮想仕事の原理：誘導はかなり複雑で省略し、ここでははりの曲げに適用した最も単純な形（結果のみ）を示す。

上の解答に合わせ、実荷重を  $P$ 、仮想荷重を  $P'$  とし、それぞれの荷重による曲げモーメントを  $M_P$ 、 $M_{P'}$  とする。そのとき仮想荷重  $P'$  が作用する点の変位  $\delta$  は

$$P' \delta = \int \frac{M_P M_{P'}}{EI} dx \quad (12)$$

で与えられる。また仮想モーメントを  $M'$ 、それによる曲げモーメントを  $M_{M'}$  とすると、仮想モーメント  $M_{M'}$  が作用する点のたわみ角  $i$  は

$$M' i = \int \frac{M_P M_{M'}}{EI} dx \quad (13)$$

となる。

現在の問題に適用すると、(12)式に(2)~(4)式を代入して

$$P' \delta_C = \int_{\ell/2}^{\ell} \frac{Px \times P'(x - \ell/2)}{EI} dx = \frac{PP'}{EI} \left[ \frac{x^3}{3} - \frac{\ell x^2}{4} \right]_{\ell/2}^{\ell} = \frac{5PP' \ell^3}{48EI} \quad (14)$$

これより

$$\delta_C = \frac{5P\ell^3}{48EI} \quad (15)$$

が解。

たわみ角は(2),(5),(6)式を(13)式に代入して

$$M' i_C = \int_{\ell/2}^{\ell} \frac{Px \times M'}{EI} dx = \frac{PM'}{EI} \left[ \frac{x^2}{2} \right]_{\ell/2}^{\ell} = \frac{3PM'}{8EI} \quad (16)$$

これより

$$i_C = \frac{3PM'}{8EI} \quad (17)$$

が解。

(参考) (14)式を見ると、両辺に  $P'$  があらわれている。したがって、(3)~(6)式の仮想荷重、仮想モーメントによる曲げモーメントを計算する際、単位荷重  $P'=1$ 、単位モーメント  $M'=1$  を入れておけばより簡単になることが分かる。すなわち、単位荷重による曲げモーメントを  $\overline{M_{P'}}$ 、単位モーメント

による曲げモーメントを  $\overline{M_{M'}}$  とすると

$$\delta = \int \frac{M_P \overline{M_{P'}}}{EI} dx \quad (18)$$

$$i = \int \frac{M_P \overline{M_{M'}}}{EI} dx \quad (19)$$

となる。 $\overline{M_{P'}}$ 、 $\overline{M_{M'}}$  は(3)~(6)式で  $P'=1$ 、 $M'=1$  としたもので、(12)、(13)式よりわずかに簡単になる。これを単位荷重の定理ともいう。

(参考2) 上の(11)式と(14)式は基本的に同じである。エネルギー原理は教科書に述べられている以外にもいろいろあり、少しずつ条件も異なるが、兄弟のような関係にあり、特に線形弾性の範囲では同じ内容を指していることが多い。

**問題9.5** AB 方向に  $x_1$  軸、C を原点に上方向に  $x_2$  軸をとる。

AB 間：

$$M_1 = P(\ell - x_1)$$

$$U_1 = \int_0^\ell \frac{M_1^2}{2EI} dx_1 = \frac{P^2}{2EI} \int_0^\ell (\ell - x_1)^2 dx_1 = \frac{P^2}{2EI} \left[ \ell^2 x_1 - \ell x_1^2 + \frac{x_1^3}{3} \right]_0^\ell = \frac{P^2}{2EI} \frac{\ell^3}{3}$$

BC 間：

$$M_2 = P\ell \quad (\text{一様})$$

$$U_2 = \frac{P^2 \ell^3}{2EI}$$

全体：

$$U = U_1 + U_2 = \frac{P^2}{2EI} \frac{\ell^3}{3} + \frac{P^2 \ell^3}{2EI} = \frac{P^2}{2EI} \frac{4\ell^3}{3} = \frac{2P^2 \ell^3}{3EI}$$

カスティリアノの定理式 (9.51) より

$$\delta_A = \frac{\partial U}{\partial P} = \frac{4P\ell^3}{3EI}$$

**問題9.6** 荷重  $P$  が作用する 1 軸応力状態での応力  $\sigma$  は

$$\sigma = \frac{P}{A} \quad \textcircled{1}$$

また、 $x$  の距離にある断面の直径を  $d$  とすると、断面積は

$$A = \frac{\pi}{4} d^2 \quad \textcircled{2}$$

である。したがって図に斜線を施した厚さ  $dx$  の部分に蓄えられる弾性ひずみエネルギーは式 (9.6) より

$$dU = \frac{\sigma^2}{2E} A \ell$$

となる。これに、①と②を代入すれば、

$$dU = \frac{\sigma^2}{2E} A dx = \frac{\left(\frac{4P}{\pi d^2}\right)^2}{2E} \frac{\pi}{4} d^2 dx = \frac{2P^2}{\pi E d^2} dx \quad \text{③}$$

となる。棒全体に蓄えられる弾性ひずみエネルギーは棒全体にわたって積分することにより得られる。ここで、 $d = d_1 + (d_2 - d_1)x/\ell$  であるのでこれを③式に代入し、積分すれば、棒全体に蓄えられる弾性ひずみエネルギーが求まる。

$$\begin{aligned} U &= \int_0^\ell dU = \frac{2P^2}{\pi E} \int_0^\ell \frac{dx}{d^2} = \frac{2P^2}{\pi E} \int_0^\ell \frac{dx}{\left(d_1 + \frac{(d_2 - d_1)x}{\ell}\right)^2} \\ &= \frac{2P^2}{\pi E} \left[ \frac{-\ell}{d_2 - d_1} \frac{1}{\left\{d_1 + (d_2 - d_1)\frac{x}{\ell}\right\}} \right]_0^\ell = \frac{2P^2}{\pi E} \cdot \frac{\ell}{d_1 - d_2} \left[ \frac{1}{d_2} - \frac{1}{d_1} \right] = \frac{2P^2}{\pi E} \frac{\ell}{d_1 d_2} \end{aligned}$$

**問題9.7** 部材 BC 間には曲げモーメントのみが作用する。したがって、曲げモーメント ( $M_1$ ) によるひずみエネルギーは式 (9.20) より、以下ようになる。

$$\begin{aligned} M_1 &= Px_1 \\ U_1 &= \int_0^b \frac{M_1^2}{2EI} dx_1 = \frac{P^2 b^3}{6EI} \end{aligned}$$

また、部材 AB 間には曲げモーメントとねじりモーメントが作用する。よって、部材 AB におけるひずみエネルギーは曲げモーメント ( $M_2$ ) によるひずみエネルギーとねじりモーメント ( $M_t$ ) によるひずみエネルギーの和となる。

$$\begin{aligned} M_2 &= Px_2 \\ M_t &= Pb \\ U_2 &= \int_0^a \frac{M_2^2}{2EI} dx_2 + \int_0^a \frac{M_t^2}{2GI_p} dx_2 = \frac{P^2 a^3}{6EI} + \frac{P^2 ab^2}{2GI_p} \end{aligned}$$

したがって、部材全体のひずみエネルギーは、 $U = U_1 + U_2$  となる。

カスティリアノの定理 (式 (9.51) 参照) より、C 点の鉛直変位は次のようになる。

$$\delta_C = \frac{\partial U}{\partial P} = \frac{P(a^3 + b^3)}{3EI} + \frac{Pab^2}{GI_p}$$

**問題9.8** 部材 AB の軸力を  $T_1$ 、部材 BC の軸力を  $T_2$  とすると、点 B に作用する力の水平方向のつ

りあいと鉛直方向のつりあいより、次の式が導かれる。

$$T_1 \cos \theta + T_2 = 0 \quad \text{①}$$

$$T_1 \sin \theta = P \quad \text{②}$$

これを、 $T_1$ 、 $T_2$ について解くと

$$T_1 = \frac{P}{\sin \theta}, \quad T_2 = -\frac{P}{\tan \theta}$$

となる。トラス構造全体のひずみエネルギー  $U$  は部材 AB と BC とのひずみエネルギーの和となり次式のようになる。

$$U = \int_0^{\ell_1} \frac{T_1^2}{2AE} dx + \int_0^{\ell_2} \frac{T_2^2}{2AE} dx = \frac{T_1^2 \ell_1}{2AE} + \frac{T_2^2 \ell_2}{2AE}$$

となる。ここで、 $\ell_1$  と  $\ell_2$  はそれぞれ部材 AB と BC の長さである。

弾性体のひずみエネルギーをある荷重で偏微分すると、その荷重の作用点における荷重方向の変位が得られるというカスティリアノの定理 (式 (9.51) を参照) を用いると次式のようになる。

$$\delta_B = \frac{\partial}{\partial P} \left( \frac{T_1^2 \ell_1}{2AE} + \frac{T_2^2 \ell_2}{2AE} \right) = \frac{T_1 \ell_1}{AE} \cdot \frac{\partial T_1}{\partial P} + \frac{T_2 \ell_2}{AE} \cdot \frac{\partial T_2}{\partial P}$$

上式に、 $\ell_1 = \frac{\ell}{\cos \theta}$ 、 $\ell_2 = \ell$  および  $\frac{\partial T_1}{\partial P} = \frac{1}{\sin \theta}$ 、 $\frac{\partial T_2}{\partial P} = -\frac{1}{\tan \theta}$  を代入すると、次式のように

点 B の荷重方向の変位が求まる。

$$\delta_B = \frac{1}{AE} \cdot \frac{P}{\sin \theta} \cdot \frac{\ell}{\cos \theta} \cdot \frac{1}{\sin \theta} + \frac{1}{AE} \left( -\frac{P}{\tan \theta} \right) \ell \left( -\frac{1}{\tan \theta} \right) = \frac{Pl}{AE} \left( \frac{1 + \cos^3 \theta}{\sin^2 \theta \cos \theta} \right)$$

**問題9.9** はりの AC 間と CB 間のひずみエネルギーを求め、カスティリアノの定理を適用すればよい。

この問題は例題 9.8 を参考にすれば分かりやすい。

それぞれの区間の曲げモーメントを  $M_1$ 、 $M_2$ 、弾性ひずみエネルギーを  $U_1$ 、 $U_2$  とすると

$$M_1 = -R_A x + \frac{1}{2} f_0 x^2, \quad M_2 = -R_A x + \frac{f_0 \ell}{3} \left( x - \frac{\ell}{3} \right)$$

となる。また、はり全体弾性ひずみエネルギーは  $U = U_1 + U_2$  となり、それぞれ区間の弾性ひずみエネルギーは次のようになる。

$$U_1 = \frac{1}{2EI} \int_0^{\frac{\ell}{3}} M_1^2 dx, \quad U_2 = \frac{1}{2EI} \int_{\frac{\ell}{3}}^{\ell} M_2^2 dx$$

上式にカスティリアノの定理を適用すると、支点 A の反力  $R_A$  による変位  $\delta_A$  が求まる。

$$\begin{aligned} \delta_A &= \frac{\partial U}{\partial R_A} = \frac{\partial U_1}{\partial R_A} + \frac{\partial U_2}{\partial R_A} = \frac{\partial U_1}{\partial M_1} \cdot \frac{\partial M_1}{\partial R_A} + \frac{\partial U_2}{\partial M_2} \cdot \frac{\partial M_2}{\partial R_A} \\ &= \frac{1}{EI} \left\{ \int_0^{\frac{\ell}{3}} M_1 \frac{\partial M_1}{\partial R_A} dx + \int_{\frac{\ell}{3}}^{\ell} M_2 \frac{\partial M_2}{\partial R_A} dx \right\} \end{aligned}$$

$M_1$ 、 $M_2$ の値および  $\frac{\partial M_1}{\partial R_A} = \frac{\partial M_2}{\partial R_A} = -x$  を代入し、また、A 点での境界条件  $x=0$  で  $\delta_A = 0$  を用い

ると、次式のようになる。

$$\int_0^{\frac{\ell}{3}} \left( R_A x - \frac{1}{2} f_0 x^2 \right) x dx + \int_{\frac{\ell}{3}}^{\ell} \left\{ R_A x - \frac{f_0 \ell}{3} \left( x - \frac{\ell}{3} \right) \right\} x dx = 0$$

これを整理すると  $R_A = \frac{115}{648} f_0 \ell$  が求まる。

**問題 9.10** (1) 曲げモーメントによる弾性ひずみエネルギーは式 (9.20) により、

$$U_B = \int_0^{\ell} \frac{M^2}{2EI} dx$$

となる。ここで、曲げモーメントは  $M = Px$  であるので曲げモーメントによる弾性ひずみエネルギーは

$$U_B = \frac{1}{2EI} \int_0^{\ell} M^2 dx = \frac{P^2 \ell^3}{6EI}$$

となる。

また、ねじりモーメントによる弾性ひずみエネルギーは式 (9.12) により、

$$U_T = \int_0^{\ell} \frac{M_t^2}{2GI_p} dx$$

となる。ここで、ねじりモーメントは  $M_t = Ps$  であり、ねじりモーメントによる弾性ひずみエネルギーは

$$U_T = \frac{1}{2GI_p} \int_0^{\ell} M_t^2 dx = \frac{P^2 s^2 \ell}{2GI_p}$$

となる。

(2) 片持ち梁であるので、A 点に単位の仮想横荷重を加えたときのモーメント分布は  $\bar{M} = 1 \times x$ 。

一方、A 点に単位の仮想ねじりモーメントを加えたときのモーメント分布は  $\bar{T} = 1$ 。

y 方向変位  $\delta$  は、

$$\delta = \frac{1}{EI} \int_0^{\ell} M \bar{M} dx = \frac{1}{EI} \int_0^{\ell} P x^2 dx = \frac{P \ell^3}{3EI}$$

となる。

一方、ねじれ角  $\psi$  は、

$$\psi = \frac{1}{GI_p} \int_0^{\ell} T \bar{T} dx = \frac{1}{GI_p} \int_0^{\ell} P s dx = \frac{Ps}{GI_p} \ell$$

となる。